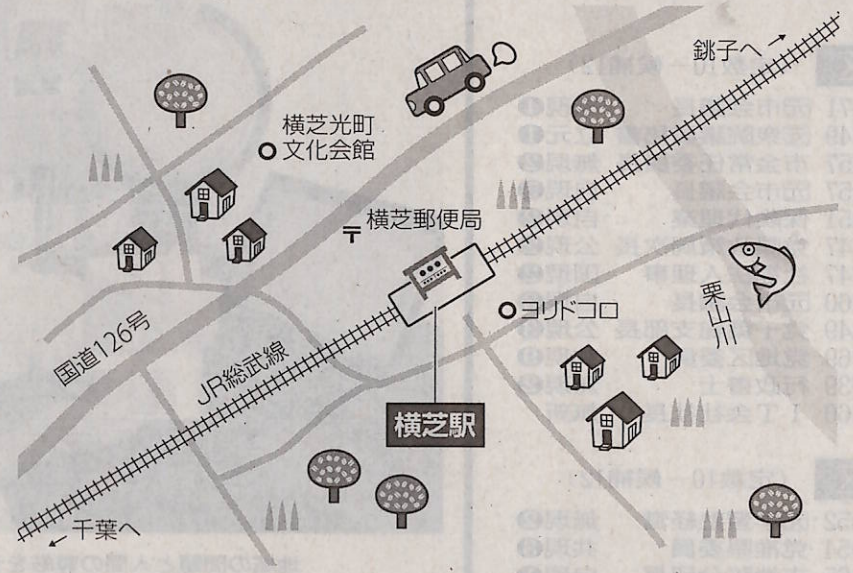


ちば

レジャー

活気再び 駅前交流施設



横芝駅 (横芝光町)

のどかな田園地帯が広がるJR総武線の横芝駅。列車を降りると、古びた平屋の駅舎が見えた。駅前には昨年、待合所を兼ねた情報交流館「ヨリドコロ」がオープン。この新旧の施設が、横芝光町の玄関口として観光客らを迎え入れている。

「建設から120年以上たった今も現役で、県内で最も古い駅舎と言われます」。駅周辺の歴史に詳しい伊藤英夫さん(67)とヨリドコロの館長を務める林勝美さん(64)が教えてくれた。屋根のふき替えや壁面の塗装は行われたが、開業時の建物が使われているという。

「横芝町史」(1975年発行)などによると、横芝駅は1897年(明治30年)、成東―銚子駅間の開通に合わせて、当時の総武鉄道が「横芝停車場」として開業した。一帯は商人の往来が活発となり、多くの商店や会社が集まった。付近は県内屈指の養蚕地帯で、大正時代には繭や米が駅の主要貨物だった。

伊藤さんが子供の頃は蒸気機関車が走っていた。「モコモコと煙を吐いてね。扉がないので動き出してからも乗り込め、便利でしたよ」と懐かしむ。付近は商業地として栄えたが、昭和40～50年代に車社会が到来すると、にぎやかさは失われていった。

伊藤さんは、駅近くの東町区にまつわる歴史などをまとめた冊子「東町もの語り」を林さんらと2005年に発行。林さんは、元は別の場所に計画されていた横芝停車場が、地元の熱心な誘致で現在の地に建てられた経緯を住民から聞き取って冊

子に記した。

まだ外観も新しい「ヨリドコロ」は、駅の待合所として利用者や雑誌や新聞を読んだり、子供が勉強したりしている。ソーセイジや梅酒などの町特産品が販売され、ビアガーデンなどの催しも行われる。

館長の林さんは、横芝光町の坂田城跡で2～3月に行われた「梅まつり」でハイキングのイベントをJRと企画。約1000人がヨリドコロなどを経由して駅と会場を往復した。「こうした仕掛けを続け、町を活性化させたい」

様々な用途で人々が集う駅前の新施設。「町のにぎわいを取り戻す起爆剤に」と期待が寄せられている。(加瀬部将嗣)



㊦「ヨリドコロ」前で町や駅への思いを語る伊藤さん(左)と林さん㊧昔ながらのたたずまいを残す横芝駅